

触媒化学研究のための酸化物エピタキシー技術の 現状と課題

松本祐司 教授（東北大学大学院工学研究科
応用化学専攻，北海道大学触媒化学研究セン
ター客員教授）



2013年7月23日(火) 15:00–16:00

創成科学研究棟3階セミナー室D

<http://www.cat.hokudai.ac.jp/access.html>

酸化物エピタキシー技術は，酸化物エレクトロニクスを始め，応用物理の分野では成熟した技術として今日に至っている。最近では，この技術を化学の分野へと応用しようとする試みが活発化している。特に，触媒化学の分野では，バルク単結晶だけでは実現できなかったより複雑なモデル触媒を提供できる技術として期待されている。本講演では，パルスレーザー堆積(PLD)法をベースに，高品質な酸化物薄膜を作製するための様々な要素技術を紹介し，触媒化学への応用に向けた今後の課題について議論する。

問合せ先： 触媒化学研究センター・准教授・高草木達(takakusa@cat.hokudai.ac.jp/011-706-9114)

講演者略歴： 1998年 東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程修了/東京工業大学応用セラミックス研究所助手・2002年 東京工業大学フロンティア創造共同研究センター助手・2003年 東京工業大学フロンティア創造共同研究センター講師・2005年 東京工業大学応用セラミックス研究所講師・2006年 東京工業大学応用セラミックス研究所助教授・2007年 東京工業大学応用セラミックス研究所准教授・2013年 東北大学大学院工学研究科応用化学専攻教授